令和７年１２月１６日

# 日立理科クラブ通信

Ｎｏ．２６０

日立理科クラブ

## 「理科室のおじさん」を訪ねて２　日立市立金沢小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、金沢小学校（窪木隆之校長）の鈴木修二（すずき　しゅうじ）さんです。

「理科室のおじさん」鈴木さん

鈴木さんは、茨城県笠間市の出身です。小学校時代は、とてもおとなしい子だったそうですが、かけ足、マラソンが速いなど運動能力が高く、中学校時代にはテニス部で県上位に入るなど活躍したそうです。今でも、山登りやスキーを楽しんでいます。

理科クラブに入る前は、２５８号で紹介した川那辺さんと同じ日立製作所大みか工場で、電力会社や鉄道会社向けのシステムエンジニアの仕事をしていました。例えば、現場の機器とつながる変電設備を、コンピュータを使って中央制御室で管理するようなシステムをつくる仕事だそうです。コンピュータがまだめずらしい時代に入社したそうですが、お話しを聞いて、新しい時代を築いていったように感じました。

整理された器具

理科室のおじさんは、２年目です。学校では、「理科室の先生」「修二先生」などと呼ばれています。先生方から授業の予定を聞いて、それに合わせて、実験の準備をしています。先生方とは、連絡ノートや確認ノートを使って丁寧にやりとりし、実験が安全にできるように工夫しています。

実験後の片づけなどもやってくれ、１単位時間が短い小学校では大変助かっています。片づけまでが学習であることを考えると、児童にも少しやらせたいという思いもがあります。

たくさんの科学おもちゃ

理科室のおじさんになって楽しみは、児童が興味津々に、実験に取り組んだり、聞き入ったりしているのを見るときです。

また、鈴木さんは、例えば、科学クラブの実験の準備をしながら、なぜこうなるのか不思議に思うことが多いそうです。児童に質問されたらなんと答えようと一生懸命に予習しています。「学び直しの連続」と話していましたが、こうして、準備の時間を楽しんでいるのだなと思いました。

子どもたちに伝えたいのは、日常の不思議に疑問をもつことです。その好奇心と探究心がきっと未来を切り開くと考えているからです。卒業生へのメッセージにもそのような言葉を贈っています。

グランドと太平洋

理科室には、科学おもちゃもたくさん用意されています。今は、原則として児童は昼休み等に理科室には来ることはないそうですが、児童が遊びに来る機会があれば、それらを使って楽しい時間を過ごせるようにしています。

最後に、金沢小学校のよさを聞きました。金沢小学校の児童は、とても元気があるということです。この日、廊下ですれ違った子どもたちも、元気よく挨拶してくれました。

広いグランドに立つと太平洋がよく見えます。この環境の中で児童が元気に遊び、元気に学ぶ生活をしています。

文責　日立理科クラブ　作間　忍　日立理科クラブ事務所　TEL/FAX　0294-24-3104